

市内戦争遺跡巡り 訪ねるコース

市内に点在する戦争遺跡を、「戦時下の小田原地方を記録する会」の方のご協力のもとご案内します。

1 東泉院（久野）

間中喜雄さんは本町の総合病院・間中病院の元院長です。小田原に生まれ、1935年に京都大医学部を卒業し、医師となりました。40年に召集され、すぐに復員。41年（30歳）に軍医として再召集され、敗戦を沖縄・宮古島で迎えました。宮古島では飢餓状態を経験し、敗戦後の10ヶ月間、沖縄の米軍捕虜収容所で過ごしました。1989年、戦争への怒りと戦争の愚かさを記した平和碑を久野の東泉院に建てました。

2 傷痍軍人箱根療養所（風祭）

風祭の国立病院機構箱根病院内にあります。日露戦争の戦傷者を収容するための施設であった廃兵院は、1906年に東京巢鴨に設立されました。その後、廃兵院は傷兵院と名称変更した後、1936年に風祭に移されました。この建物（本館）はその際に新設されたものです。また当時の建物として奉安殿（天皇・皇后の御真影や教育勅語を収めていた建物）が現存しています。1940年には傷痍軍人箱根療養所が併設され、戦傷脊髄損傷患者が入所しました。

3 松永記念館（板橋）

松永記念館の老譽荘の入口付近の裏の崖に二つの扉がついた入口があり、それぞれの内部はかまぼこ型の広い空間になっています。この横穴は、本土決戦のために作られた地下壕と考えられます。足柄平野には1945年4月頃より第84師団が本土決戦のために駐留しますが、最初に行ったことはこのような地下式陣地の構築でした。近くの大窪国民学校には、野砲兵第84連隊の一部が駐留しており、その関連施設とも考えられます。



4 蓮上院（浜町）

敗戦2日前の1945年8月13日、午前8時～9時頃、新玉国民学校（現新玉小）は米軍小型機による空襲を受け、教職員3名が亡くなりました。投下された4発の爆弾のうち、2発は学校内に、1発は近くの田んぼに、もう1発は隣接する寺院・蓮上院にある中世土塁の上に落ちました。土塁は後北条氏が築いたもので国指定史跡となっています。そのため、爆弾によって生じた穴を埋めることなく、その痕跡を現在に留めることになりました。

